

平成22年 4月 23日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19330023

研究課題名(和文) 法曹の質と社会秩序：弁護士数増加と法化社会の行方

研究課題名(英文) Social Order and the Quality of Lawyers: The Impact of Recent Increase of Lawyers to the Japan's Legalization

研究代表者

太田 勝造(OTA SHOZO)

東京大学・大学院法学政治学研究科・教授

研究者番号：40152136

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：法学・新領域法学

キーワード：弁護士，法曹養成制度，法律家，法曹の質，法実務

1. 研究計画の概要

法曹の質について，社会科学的な検証可能な概念規定と理論モデルを構築し，現実に調査を実施することで，現代日本の法曹の質を客観的に測定し，日本の進みつつある法化社会への道に，法曹人口増加がいかなるインパクトを与えつつあるかを測定しようとする研究である。

まず，熟練の弁護士との討議をつうじて法曹に必要な能力とスキルについて理論仮説を立て，練達の弁護士への質問票調査によって，仮説を検証する。検証された法曹の質概念に基づいて質問票を作成して弁護士への調査を行う。顧客満足法を応用して法律相談者や訴訟における弁護士利用者への弁護士評価を調査する。弁護士の社会へのインパクトの計測手法のひとつとして，弁護士についての国民の知識とイメージと社会的威信をインターネット調査の手法を応用して実施する。さらに，裁判所記録を熟練の弁護士が読んで，担当弁護士の能力とスキルとを評価する。

このようにして，多面的・多元的に法曹の質を概念規定し，社会科学的・客観的な測定法を開発して，測定を実践している。

2. 研究の進捗状況

弁護士調査(全国のすべての弁護士を対象の質問票調査)，法律相談者調査(法律相談来所者への質問票調査)，訴訟利用者調査(訴訟利用者への弁護士についての質問票調査)，弁護士イメージ調査(弁護士についての知識やそのイメージや社会的地位についてのインターネット調査)は完遂している。

現在進行中のものは，最高裁判所の許可の

もとに，東京地方裁判所の協力を得て，延べ100名の熟練弁護士を動員して東京地方裁判所で実施した，弁護士による弁護士パフォーマンス評価のデータの入力，データ・クリーニング，集計，統計分析，論文執筆である。

すなわち弁護士のスキルや能力を現実的に測定するために，熟練の弁護士延べ100名の協力を得て，最高裁判所の許可のもと，東京地方裁判所の協力を得て，熟練弁護士による弁護士評価を実施した(2010年3月)。すなわち，2007年新受事件の中で既に終了した事件で，判決または和解で終了し，原告被告双方に弁護士が訴訟代理人としてついていて，裁判所記録上「その他」事件に分類されておらず，比較的充実した事件をランダムに抽出して，2名の熟練弁護士が相互に独立して当該民事訴訟記録を読んで，訴状・答弁書，準備書面，当事者尋問(主尋問，反対尋問)，証人尋問(主尋問・反対尋問)等のスキルと能力を評価し，さらに当該弁護士についての「シツ」を総合評価するという研究であり，190件について実施した。この研究成果も商事法務から単行本として刊行する予定である。なお，予備調査を最高裁判所の許可を得て，横浜地方裁判所の協力と，弁護士の協力のもとに，2008年度に実施している。

このように，本研究は初期の目標を順調に達成しつつある。

3. 現在までの達成度

<区分>

当初の計画以上に進展している。

(理由)

法曹の質の多元的概念規定を社会化学的

手法によって間主観的に実施し、それに基づく質問票による弁護士調査を完遂し、法律相談者調査、訴訟利用者調査を完遂し、弁護士イメージ調査を完遂し、練達弁護士による弁護士パフォーマンス調査の分析を進めている最中であり、達成度は100%以上であると自負している。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は最終年度であり、これまでの研究の集大成の取りまとめを行う。
国際会議や国内会議に出席して、研究成果の発表を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

太田勝造「法曹の質とロースクール」ロースクール研究 15号 59-62頁(2010) 査読無(依頼)

OTA, Shozo, "The Lawyer-Client Relationship in Civil Litigation: Mutual Understanding or Misunderstanding?," Meijo Hogaku [Meijo Law Journal], Vol. 58, No. 4, pp. 93-111 [104-86](March 2009) 査読有

太田勝造「説得の論理学と裁判員裁判」後藤, 四宮, 高野, 早野(編集)『裁判員裁判: 刑事弁護マニュアル』(第一法規, 2009), 237-244頁、査読無(依頼)

太田勝造「『法曹の質』の調査研究: 依頼者・弁護士関係 法律相談者評価と弁護士自己評価・ピアレビュー」『法社会学』70号(2009年3月) 159-168頁、査読有

太田勝造「市民から見た弁護士費用」『L I B R A』(東京弁護士会機関誌) 8巻 2008年12月号(2008年12月) 2-8頁、査読無(依頼)

太田勝造(「法曹の質」研究会代表)「『法曹の質』の検証方法に関する研究」『法と実務』(日弁連法務研究財団編, 商事法務, 2007年6月) 1-93頁、査読有

[学会発表](計 2件)

村山真維「弁護士利用パターンと社会関係資本」日本社会学会 2009年度学術大会, 立教大学, 2009年10月11日

太田勝造「市民から見た弁護士イメージを考える: 民事訴訟当事者調査とインターネット調査の結果から」東京弁護士会シンポジウム, 弁護士会館, 2009年7月17日

[図書](計 2件)

太田勝造(法曹の質研究会代表)『弁護士イメージの研究』(商事法務, 2010) 180頁

太田勝造(「法曹の質」研究会代表)『「法曹の質」の検証: 弁護士に求められるもの』(商事法務, 2008年) 315頁